



©Yuki Asada

草と木と、羊毛のぬくもり

かつては遊牧民族だったキルギスの人々。伝統的な生活の中で、ユルタと呼ばれる移動用テントの天幕やじゅうたんは、羊毛で作られていた。ソ連時代の政策で一つの土地に定住する習慣が生まれたが、それから羊毛は重要な輸出品としてキルギス人の社会に根付いている。

キルギス北西部の山岳地帯に広がる“凍らない湖”、イシククリ湖。この湖をいただく高地、イシククリ州での一村一品運動商品の一つに草木染を施した羊毛フェルトが選ばれた背景には、人々と羊毛がつむいできた長い歴史があった。一方、天然の植物を使う草木染は、キルギスの人たちにとって新しい技術だ。

高品質のメリノ種の羊毛とイシククリ州の自然の恵み。クルミ、タマネギ、アカネ

など地域で採れる材料を使い、暖かな色に染め上げられた羊毛を、手作業で一つ一つフェルトに作り上げるのは、地元の人たち。ニードルで刺したり、石けん水を使って毛の束を縮めたりするフェルト作りは、多くの人にとって初体験だ。

生産者の大多数を占める女性たちの生き方は、一村一品運動を通して大きく変わった。これまで社会的地位が低く、嫁いだ後はずっと家庭を守らなければならなかった彼女たちにとって、一村一品運動という仕事のために胸を張って外出できるのは画期的なことだ。また、自分の手でお金を稼ぎ、家計を助けることで、女性の家庭内での地位向上につながる。

キルギスの大地から生まれたフェルトが、女性たちを暖かく包み、育んでいる。



フェルト作りが女性たちの生活を変えた

- ★キルギスのフェルト製品を1人にプレゼント!
→詳細は38ページへ
- ★一村一品運動によるイシククリ地域のフェルト製品の販売情報は、eje & (エジェアンド)のFacebookページで発信中です。
<https://www.facebook.com/ejeand>



イシククリ州
キルギス